

「素晴らしい救いの7つの恵み」 ヨハネ3：16～17

前回は、伝道において、人を救うのは、神の分である事、人は、人々に主を信じさせる事はできない事、人の分は、人々を愛し、祈りつつ、主を伝える事、結果は神に委ねる事、と同時に神は、人々の救いを願い、私達が福音を神が与えられた家族、知人に伝える事を喜び願っておられる事を教えられた。一人ですべての人に福音を伝える事はできないので、協力し合い、自分の分を果たす。本日は、「主イエスを信じるなら救われます」と伝える時、「救われる」という事が、どのような意味であり、どんな素晴らしい恵みかを学びたい。私達自身が、救いの素晴らしさを知り、主を伝える時、いつか今日の学びが用いられますように！どうぞ保存し、何度も味わい、用いて下さい。主の救いは豊かで深いため、色々な面がある。一言で言い尽くせない。それぞれの恵みはつながっている。※この内容は、HBIの「個人伝道」の授業でも、用いています。神の恵みを深く教えられ、再確認させられ、伝道へと用いられます。

1. 「永遠のいのち」をいただける→ヨハネ3：16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じるものが、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。(1) 罪の支配のまま永遠に生きるいのちをいただいても嬉しくない。それは、かえって、辛い事。神に愛されて永遠に豊かに生きるいのちを与えて下さる。(2) 御子と別にではなく、御子のうちにあるいのち→「神が私たちに永遠のいのちを与えられた…このいのちが御子のうちにある…御子を持つ者はいのちを持っており I ヨハネ5：11, 12。御子を信じ御子を心に持つ者は、永遠のいのちを持っている。(3) 私達は、自分の罪故に本来は「永遠に昼も夜も苦しみ続ける」(黙示20：19) 神の刑罰(=神と永遠に引き離される)を受けなければならなかった。しかし、これと全く反対のいのち、つまり、「永遠に神に愛され神を知り続け、神と交わり、神と共なる生活」が、主を信じる者に与えられる→「永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストを知る(原語：知り続ける)ことです」ヨハネ17：3。御言葉、祈り、神との深い交わりを通して神と主を知り続けるいのち。

2. 「天国に入れる」「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」ルカ23：43、黙示21～22：5。21：13→「神ご自身が彼らとともにおられ」。天国の最大の恵みは、私達を愛して下さる父、子、聖霊なる三位一体の神が、最も近く永遠に共にいて下さる恵み。神が造られた生き物と共に。5：13。「神の国」=神の支配(マタイ12：28)。天国、神の国とは、神の義と愛と平和が完全に支配している素晴らしい所。

3. <新しく生まれる>→ヨハネ3：5。「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることはできません。」(1) 人の計画や力ではなく、御霊なる神が、主を信じる人の心に住み、人に全く新しいいのち、性質、御言葉への理解、変化を与えて下さる。この神の一方的な働きにより、私たちの知性と意思が変えられ、神がわかり、信じることができる。(2) 「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られたものです。」Ⅱコリント5：17。(3) 「父は、みこころのままに、真理のこぼれをもって、私たちをお生みになりました。」ヤコブ1：18。

4. 「罪の赦し」→エペソ4：32「…神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さった」。(1) 主は私たちの過去、現在、未来のすべての罪を十字架の死によって償って下さった。→「…ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖い(代価の支払い、償い)を成し遂げられたのです。」ヘブル9：12。(2) 旧約時代は、「やぎや子牛の血」(ヘブル9：12)がささげられることにより人々の罪の償いが

なされた。しかし、それらは、不完全だった。そして時満ちて、動物でなく、主ご自身の一点の汚れもない尊い血が十字架で流されて、私達の罪の赦しを完成された。(3) 悔い改めて主を信じる時、その完全な赦しが、私たちのものとなる。(4) 主を信じた後に犯してしまった罪も、日々神に告白するとき赦してください。

Iヨハネ1：9。(5)「許し」と「赦し」は大きく違う。「許し」=罪を見逃す、罪を大目にみる。→これでは、神は正義の方ではなくなり、社会は混乱する。「赦し」=罪なき方である御子が、罪人である私達の身代わりに十字架で刑罰を受けられた事により、罪は罪として裁く神の正しい性質が示され、その「償い」が完了したので、信じる人々の罪が赦される。(ローマ10：4、3：25～28)

5.「贖い」→ガラ3：13「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろい(神の正しい裁き)から贖い出してくださいました。」。(1) 贖いとは→自分で救うことのできない危険にさらされている人のために、他の人が代価を払って、その人を買戻す事。「神は私のたましいをよみの手から買戻される」詩篇49：15。(2) 神に背いて、神の正しいさばきから逃れることのできない私達の為、主がご自分の血、いのちを代価として支払い、その裁きの原因の私達の罪を赦し、永遠の滅びから買戻して下さった。「ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられた」ヘブル9：12。神は、御自身で代価を用意し、悪魔にではなく、御自身の義に支払い、私達を永遠の滅びから買戻し救い出された。それ故、私達は、自分のものではなく、神のもの。Iコリ6：19、20。

6.「信仰による義認」→ガラテヤ2：16「…人は、律法の行いによっては義と認められず、ただ、キリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる…」。(1) 信仰による義認とは、法的用語で、「無罪の宣告」の意。(2) 私たちが自分の罪のために永遠の滅びに定められている中で、主の十字架の贖いの故に、その定めがくつがえされて、無罪の宣告を受け、神との正しい関係(→それが義の意味)に入れられ、恐れることなく神に近づく事ができる。(3) 世界の裁判官である神は、無罪であるご自分のひとり子を有罪とし(十字架につけ)その代わりに、有罪である私たちを無罪として下さる。キリストの義が、罪人の私達に転嫁される。この十字架の中に、罪は罪として裁く神の正しさと、罪人でさえ愛し赦される神の愛が両方示されている。(ローマ3：25～26とローマ5：8)

7.「神の子どもとされる特権」→ヨハネ1：12「…その名を信じた人々には、神の子ども(原語：テクノン。子供、息子)とされる特権をお与えになった」(1) 父なる神は、主を信じる私達(私達は、罪と悪魔と死の奴隷という身分だったにもかかわらず)を神の愛する子供、息子、娘として下さる。神の家族の一員とされる。何という恵み！(2) 神の子どもであるので、新しい身分となり、御国(使徒20：32、エペソ1：14、コロ3：24)、栄光に富んだもの(エペソ1：18)、永遠の資産(ヘブル9：15、Iペテロ1：4)、神の祝福の相続権が(ガラ3：9、29、4：7、ローマ8：17、)与えられる。全世界の支配者を、「お父さん」とお呼びできる。(3) 父なる神は、私たちが神の子供である故に、片時も忘れず関心を持ち、見守り愛しておられる。→コロサイ3：12、エペソ5：1、Iヨハネ3：1。無条件の愛で、永遠に私達を愛し続けられる。(4) 神の子どもとされた私達が、御父の聖さにあずかり、御子に似るように、神は愛をもって訓練して下さる(ヘブル12：1～17)。御父の聖さにあずかり、御子の姿に成長するように、励まし、ある時は罪に気付かせ、神に立ち返らせ、訓練し、育て続けて下さる。

祈り：このような素晴らしい救いを心より感謝します。この素晴らしい救いの福音をまだ知らない方々に、御聖霊の導きに従い、機会が与えられて伝える事ができますように。※救いの確信がなくなる時→Iコリント12：3、ローマ10：9、Iヨハネ1：9をいつも読み、御言葉に励まされましょう！